



だよ〜ん Dayon通信

2018年2月23日（金）

第7号

大変ご無沙汰しておりました。日本は今年、ひどい大雪の年だと伺いましたが、皆様はいかがでしょう。この Dayon 通信が皆さんの手元に届くころ、もう水農は卒業式を終えた後でしょうか。私のフィリピンでの活動も残すところ1カ月を切りました。2年間の JICA ボランティアとしての活動を振り返りながら、最後の Dayon 通信をお届けしたいと思います。

【 NHKBS1 と NHKworld にて、活動が放送されました 】

I' m CACAO GIRL!!

偶然の出会いから、わたしが投稿した JICA つくばの記事をきっかけに、NHK マニラ支局の方がカカオガールとしての私の任地での活動を取材してくれました。みなさん、動いている私の映像、見てくれましたか。フィリピン流のバタバタしたなかでの撮影となりましたが、日頃見かけないカメラの登場に、町の農家さんはそわそわ。でも、訪問者が来た時の農家さんたちのやる気はまたいつもと違います。事前準備もいつもよりしっかりできているし、来る時間もいつもより早めです。



今回は、カカオ農園にあるカカオポッドが、発酵という加工を経て加工品へと姿を変え、店頭に並ぶまで、という番組設定で収録していただきました。なんと言っても、フィリピン人はやるぞーって決めたときの、パワーが凄い。水農生とも似ていますね。私がこれいいよ〜って進めてきても、そんなに関心が無かったような農家さんたちが、カカオ加工品作りに真剣に取り組んでいるではありませんか。やはり、メディアの影響っていうのはすごいですね。ありがとうございます、NHK様。

今回の取材は、日本・世界各国の皆さんに私たちのレイテ島マタグオブ町でのカカオ栽培の活動を見ていただけたということはもちろんですが、そのことが彼らの自信とやる気へも繋がっているようです。私としては、それが一番うれしい。農業は自然災害とも向き合わなければならず、根気がいる産業。ましてや、カカオ栽培は収穫まで最低2年以上の年月を必要とし、気合が無ければ続けられない。そして、こんな台風が多い地域では尚更です。フィリピン人の性格を考慮しても、やはり大事になってくるのは“忍耐とやる気”。それは、ただセミナーをやっているだけで身に付けてもらえるものではないし、信頼関係と時間をかけた活動を経え、日常の生活から少しずつ蓄積していってもらうものだと思います。

思わぬNHKの取材のおかげで、最後はいいかたちで活動が終わりそうです。



【 組合の商品を作り、近隣市町村で販売開始 】

NHKでの取材をきっかけに、組合員たちのカカオビジネスに対するやる気が出てきたようで、念願の組合としてのカカオ加工品を近隣都市のレストラン・お土産ショップ・カフェに置いてもらえることになりました。これまた嬉しい知らせえええ〜。農家さんたちは生計を立てるためにカカオ栽培に携わっているのはもちろんですが、これだけ手間暇をかけて育ててきたカカオが、都市で形を変えて売られるなんて。金銭面だけではなく、何よりも農家さんたちは小さな田舎の町から、自分たちの農作物・商品が外に飛び出していくことが嬉しいようです。私も嬉しいぞー!!! こういう小さな成功体験の積み重ねが、みんなの自信と行動に繋がっていくんだなあと、今までの活動を振り返りながら、少し感動したりもしました。

でもカカオ協同組合としてのビジネスはまだまだ始まったばかり、ここからが勝負。商品が思うように売れないとき、諦めずにトライし続けられるか、そこをサポートするのが、私が配属されている町の農業事務所の役目でもあると思います。

これから、市長が持っている銃ショップでもカカオ加工品を取り扱ってもらう予定だし笑、活動もいろいろと広がりを見せてきて、将来が楽しみです。

【 今までの活動を振り返ってみて 】 Thanks for valuable experiences*

わたしが JICA ボランティアに応募しようと決意してから、3年が経ちました（まだ3年しか経ってないのか！という感じもしますが）。そのきっかけは、私の水農での教員生活からです。初めての社会人としての仕事として選んだのが、教員。いろんな経験を水農ではさせてもらいました。その中で、自分の教員としての将来を考えたとき、机上の空論ではなく、経験から語れる教員になりたいと思ったのがきっかけです。経験は、何にも変えられない教材であり、体力や時間がある今、それにチャレンジしてみたい。そこから、自分の学生時代からの憧れでもあった JICA ボランティアに応募してみようと思うようになりました。

異国の地での生活は、自分が想像している以上に大変で、言葉や文化の壁に悩む日々もありました。そんな時に支えになったのは、友達や同僚、昔の生徒たちからもらう励ましの言葉でした。どんな土地でも、私はたくさんの人に支えられ、助けられているんだと感じる瞬間でもありました。

長くこの地に生活し、任地の人々と離れる寂しさももちろんあります。しかし、またすぐに戻って来ようような、活動としてもこれからも繋がっていけるような気がしていて、不思議と今非常に前向きなワクワクした気持ちでもあります。

このような貴重な経験と時間を与えてくださり、学科をはじめ水戸農業高校の先生方には非常に感謝しております。安部由香子、フィリピンでカカオガールという愛称をゲットして茨城に帰ります。4月に皆さんにお会いできるのを、楽しみにしています。ではでは、また日本でお会いしましょう、長い間 Dayon 通信を拝読いただき、ありがとうございました。

